

令和7年度第3回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会（概要）

- 1 開催日時 令和7年12月5日(金) 15:00~17:00
- 2 場 所 東北森林管理局 2階 大会議室
- 3 出席者 高田委員、黒瀧委員、小野寺委員、一条委員、守屋委員、大坂委員、
児玉委員、安部委員、伊藤委員

4 検討結果

秋の需要期を迎えているが、今年度は、各地域において原木不足が解消されないまま出材量も増えず、原木価格は居所高で推移している。

製材品については、建築確認審査で遅れていた物件が徐々に動き出しているものの、住宅需要の低迷により荷動きに勢いが無く、当用買い中心となっている。一方、消費地へのスギ集成管柱の出荷等は、輸入材からの代替え需要もあり堅調で、大型国産材製材工場の原木調達は高水準で安定しているが、課題である製材品価格の値上げは、原木の価格、運送費、副資材費、労務費等のコストアップが価格に反映されないことから進んでいない。

また、中国への原木輸出は、年度前半は順調に行われていたが、現在は停滞気味となっている。

今後も、木材供給先の柱でもある住宅需要に回復の兆しは見えず、先行きが懸念される。非住宅建築物の木造への転換や木質内装化、土木資材等への活用など、川下での木材利用の拡大が急務となっている。

このように、木材の需給動向の先行きは依然として不透明であり、引き続き、木材利用の拡大、各製材工場などにおける原木集荷・製品生産・製品の出荷状況や原木輸出入などの動向、米国の関税をはじめとする国内外の情勢などを注視する必要があると思われる。

以上のことから、国有林に対しては、「原木・製材品の状況に大きな変化は見られず、現時点で国有林材の供給調整は必要ないが、引き続き各地域の需給動向や民有林の状況を注視し、安定供給を継続するよう求める。」と報告する。

5 主な意見

- 素材の入出荷・販売・在庫量は、夏以降、生産請負が続いているが依然低調である。そのため、各工場から継続的に原木入荷の要請をいただいているが、現状ではすべての要請にこたえることができない。特に製材工場の集荷に苦慮しており、生産請負が終了する年末までは出材が難しいと考える。年明け後、丸太が出回ると想定するが、各工場が十分な在庫量を確保するまでは時間を要すると考える。価格に関して、製材用原木は不足により高値で推移しており、出材量が回復する春までは、

強含みで推移すると思われる。また、広葉樹では、ナラ材は樽用とその他製材品用の価格差があまりない状態となっている。青森県ではナラ枯れというタイトルで毎日のように新聞に掲載されているため、樽用メーカーもかなり心配して要請をしている。

- 製材用スギ原木の入荷量は9月まで安定していたが、10月に入って大きく減少している。そのため、在庫量が昨年と同様、期待ほど増えないのではないかと不安がある。国産構造用集成材は、供給が安定してこそ需要が定着するため、原料の安定供給体制の構築が急務である。また広葉樹原木に関して、製紙用は9月以降入荷が完全に止まってしまい国有林からの調達でしのいでいる状況であり、燃料用の入荷量は9月以降減少傾向となっており、製紙用と同様に国有林からの調達が主力となっている。これらの原木入荷量減に伴い、広葉樹チップの販売量も減少している。
- 中小規模製材工場では、3.00m、3.65m 素材の在庫不足を感じている。こうした状況に配慮し、長尺材や数量など販売単位の工夫を行うことで、在庫不足対策になるだけでなく、より高い価格での販売も期待できる。国産材の現状として、円安が進んでいるため輸入材が少なくなり国産材のウエイトが高まるのではないかと考える。また、スギ材は新設住宅着工戸数の減少で国内需要も減少しているが、集成管柱の外材比率が高いことから国産材による代替の動きの継続が鍵となる。行政について、目的意識を職員が強く持つことで変わってくるところがあるかと思うので、そのあたりの啓蒙をしていただけたらと思う。公共土木事業等での木材利用に関して、大手企業の研究開発が進んでいるので、各県で一か所でも成功例があると、県が採用して、市町村が採用するといった連鎖が起きるので、ぜひ林野庁から国交省に声をかけていただきたい。
- 原木に関して用途が無くなってきている。合板が売れないということで、B材の需要が減少し流通が滞ることで他の材の供給にも影響が出ている。私が携わった発電所が営業運転に切り替わったが、発電資材について、C材・D材の割合を途中で増やしていくことが難しい仕組みを導入されている。これは改革しないと、業界全体がなくなるのではないかと考えている。また、丸太は現金で取引しており、取引適正法で現金払いが60日以内と定められるようになるため、現行の支払い条件では法律違反となる。そのため、法律違反とならないよう公正取引委員会に質問を行いながら、お客様と協定書の再締結を行っている最中である。さらに、ナラ枯れ材の活用はフローリングメーカーから要望があるものの、製材工場において毎月一定量安定してナラ枯れ材が入荷できるかどうかが大切であることから、ナラ枯れ材について移動制限や安定供給の課題がある。
- 秋田県について、昨年からは原木が不足の状態であるが、国有林から出てくる形の中で入荷量が増え生産量も増えている。しかし、今年も大雨の被害で国有林からの出材が中止になったものもあるため、まだ足りない状態である。素材・製材品の価格に関しては、出材量が少ないため、高止まりとなっている。これは、量産工場が進出してきたが原木の出荷量が変わらないため、非常に難しい問題である。また、秋田県の林業労働者は約1400人で変化しておらず、伐採だけでなく再造林に対する期待も高まっているため、需要があっても人手不足のため原木をなかなか出せない

いのが現状となっている。

- 国産針葉樹合板の出荷は若干回復傾向にあるものの、需要不足で停滞感が漂うマーケットが続いている。一時期よりも荷動きは若干改善したものの、需要の下支えが弱いことから全般に活況を欠く展開が続く。合板価格は横ばいで推移しており、合板メーカーは値上げ姿勢を崩していないものの、川下の反応は鈍く当用買い継続となっているため、価格の基調は強含み保合のまま推移と予想する。合板用原木は出材量回復傾向で需給は均衡となっており、価格は高値で推移している。合板向け需要は低調ながら、スギ原木価格は今後も高値で推移すると予想する。
- 山形県において、素材生産は合板工場が受け入れ制限を継続しているため、民有林の出材量が少ない状況が続いている。集成材工場では生産量を抑制しているが、県南の工場では生産量抑制が少し回復しており動きがよくなっていると思っている。製材用は住宅不振から当用買いであるが、素材生産量が少ないため不足気味である。また、山形県内でもナラ・クリ・サワグルミといった広葉樹に関する話があちこちから聞こえてくる。以前、伐採したナラの9割がナラ枯れであったが、出品したところ売れたため、そのぐらい広葉樹が不足している状況である。